

## 2018年度 大学自己点検・評価(総合政策研究科)自己点検・評価総括用シート 1

## ＜総合政策研究科の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況	
目標1	多様な分野の知識に基づく高度な政策分析力の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改訂の有無</li> <li>・課題研究「リサーチ・プロジェクト」の履修・運営方法の変更、適切な科目名への改称</li> </ul>	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D: 行動計画の未着手	2018年度目標値	A
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
目標2	実務上の専門的技術の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国連・外交コース」履修者数</li> <li>・「建築士受験資格大学院実務経験プログラム」履修者数</li> </ul>	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D: 行動計画の未着手	2018年度目標値	C
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
目標3	高度なコミュニケーション能力の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ドーナツ・アワー」への大学院生参加率(平均:社会人除く)</li> <li>・「リサーチ・コンソーシアム/リサーチ・フェア」における大学院生の発表率(平均)</li> </ul>	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D: 行動計画の未着手	2018年度目標値	B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
目標4	社会に資する研究等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費・新規採択件数および日本学術振興会特別研究員・新規採用者数</li> <li>・各種研究会(新任教員研究発表会など)の開催回数</li> <li>・大学院定員の適正化(定員削減)</li> </ul>	A: 行動計画①②③がともにAに達したレベル B: 行動計画①②③がともにBに達したレベル C: 行動計画①②③が具体的な検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手	2018年度目標値	B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	C

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

**総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>**

- 1 全体として「概ね順調に推移している」「適切性の検証が実施されている」との外部評価を得ており、研究科として、目標や方針、行動計画の実現について確認することができた。
- 2 個別的には、学生に対する周知公表の方法について指摘を受け、改善することができた。
- 3 行動計画の実施指標について工夫が求められたが、今後の課題であると認識している。

**評価専門委員・所見記入欄:**

■総括1について

- ・ 概ね順調に取り組みが進められているようです。(A)
- ・ 目標4の未達成をどのように考えるか。(B)
- ・ 個別目標の達成状況もさることながら、それらによって得られた成果についても検証しておくことが望ましい。(C)
- ・ 熱心に取り組み、適切に改善されていると評価できます。(E)
- ・ 全体として適切に自己点検及び評価が実施されていると思います。(F)
- ・ 引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(G)